

中国の記事から（畜産）

2007年3月31日号

目次

◎国家質検総局「干し肉の品質合格率は86%」

【国際商報 2007年03月27日】

◎全国の「保護的耕作」面積が2000万ムーに

【経済日報 2007年03月27日】

◎国家質検総局「干し肉の品質合格率は86%」

【国際商報 2007年03月27日】

国家質検総局(国家質量監督検閲検疫総局。製品品質を管理)は先ごろ、上海市、江蘇省、広東省、浙江省、福建省、貴州省、四川省、重慶市、山西省の9省・直轄市で50メーカーが生産した干し肉50製品を対象に行った品質サンプリング検査の結果を発表、合格率は86%となったことを明らかにした。不合格製品では大腸菌数、食品添加剤の含有量が基準をオーバーする問題が目立った。不合格となったのは福建省石獅市万里香食品有限公司の「回味」ブランド製品、成都金太陽食品開発有限公司の「阿甘」。一方、高品質と評価されたのは成都伍田食品有限公司の「雅克」製品、杭州綠盛集团有限公司の「綠盛」など。

また、国家質検総局は北京市、天津市、河北省、広東省などの11直轄市・省で42メーカーが生産した蜜漬52製品を対象に行った品質検査の結果を発表、合格率は76.9%となったことを明らかにした。不合格となったのは天津市樂発食品有限公司の「南凱」ブランド製品、細菌数、チクロ含有量がいずれも基準をオーバーしていた。広東省普寧市康拜恩食品有限公司の「順宝」は安息香酸含有量が基準をオーバーしていた。

◎全国の「保護的耕作」面積が2000万ムーに

【経済日報 2007年03月27日】

農業部新聞弁公室は、「保護的耕作」実施から5年、農業部は全国で「保護的耕作」モデル県167県を認定、その耕作面積は2000万ムー(1ムーは6.6アール)に達していることを明らかにし

た。「保護的耕作」とは生態環境を保護し農地の持続的利用を促すことを目的に、農作物のわらを地表に残して耕作し施肥の手間を省くもの。土壌流失、農業生産コスト低減、農産物わら焼却による温暖化ガス削減を図る。農業部が「保護的耕作」を行う農作物14品目のうち収穫量が増加したのは13品目だった。特にトウモロコシは4.1%増、小麦7.3%増、大豆32%増を記録したのが目立つ。年2回収穫する地区ではコスト低減によって1ムーあたり101元の収益、年1回収穫する地区では同43.5元の収益があった。北京市では2006年、「保護的耕作」(計177万ムー)による収益8000万元に達している。農業部は今後「保護的耕作」面積を拡大していく方針である。

本情報は、株式会社日本能率協会総合研究所により
翻訳された中国の新聞記事をもとに、同社の許可を得て
独立行政法人農畜産業振興機構が整理したものです。